

MIRU2011 L^AT_EX 2_ε クラスファイルの使い方

－ 解説とテンプレート －

電子 花子[†] 情報 太郎^{††} 通信 次郎^{††}

[†] 第一大学工学部 〒 105-0123 東京都港区山田 1-2-3

^{††} 大阪株式会社開発部 〒 565-0456 大阪府吹田市河田 4-5-6

E-mail: [†]hanako@denshi.ac.jp, ^{††}{taro,jiro}@jouhou.co.jp

あらまし MIRU2011 用の pL^AT_EX 2_ε クラスファイル, miru2011.cls の使い方を説明します. 本クラスファイルは, アスキー版 pL^AT_EX 2_ε に基づいて作成しています.

キーワード L^AT_EX 2_ε, アスキー版 pL^AT_EX 2_ε

1. はじめに

MIRU2011 用の pL^AT_EX 2_ε クラスファイル, miru2011.cls の使い方を説明します. 本クラスファイルは, アスキー版 pL^AT_EX 2_ε に基づいて作成しています. 本クラスファイルは, 電子情報通信学会技術研究報告のためのスタイルファイルをもとにして, MIRU2011 予稿集向けに修正を加えたものです. スタイルファイルの詳細の利用法については, もとのスタイルファイル付属のドキュメント (http://www.ieice.org/ftp/tex/tech_rep/LaTeX2e/) をご参照ください. 原稿の体裁は電子情報通信学会技術研究報告に準じます. 詳細の執筆要領については, 電子情報通信学会技術研究報告執筆要領 (電子情報通信学会 Web ページなど) をご参照ください.

2. 原稿の書き方

使用言語は, 日本語または英語です. 以下, 和文用の説明です. 原稿の 1 ページ目上部には, 一段組みでタイトル部を記述して下さい. タイトル部には, タイトル, 発表者氏名, 勤務先, Email, あらまし (300 字程度), キーワード (6 個程度) を記述して下さい.

1 ページ目の全てをタイトル部にする必要はありません. 本文は, タイトル部に続けてそのまま 2 段組みでお書き下さい.

3. ページ数

最大ページ数は, 投稿するカテゴリ等によって異なります. 詳細は, MIRU2011 Web ページを御覧下さい.

4. 著者に関する情報

査読はダブルブラインドで行います. 査読付論文の投稿時には, 論文中に著者を特定できる情報を入れないように注意して下さい.

- 1 ページ目の発表者氏名等は空欄にしておいてく

ださい.

- 謝辞は記載しないで下さい.
- 著者自身の既発表論文についても, 「我々は」という引用をせず, 第三者の立場で引用するようにして下さい.

文 献

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻, 号, pp. を付けて始め-終りのページ, 月 (英語) 年.
- [2] (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論 (B), vol. J62-B, no. 1, pp. 20-27, Jan. 1979.
- [3] (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol. 52, no. 3, pp. 284-290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21-41, (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部を引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp. を付けて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例 1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21-41, (社) 電子情報通信学会, 1989.
- [9] (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp. 381-390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no. を付けて論文番号, pp. を付けて始め-終りのページ, 都市名, 国名, 月 (英語) 年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no. MoF4.6, pp. 3-13, Amsterdam, The Netherlands, Sept. 1990.
- [12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no. を付けて論文番号, pp. を付けて始め-終りのページ, 月 (英語) 年.
- [13] (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, “紫

外域半導体レーザ, ” 1995 信学全大, 分冊 2,no. SB2-1,pp. 20-21,Sept.1995.